

工学研究科・工学部案内

2027

Guide Book to Faculty of Engineering and Graduate School of Engineering, Mie University

- 機械工学専攻・機械工学コース
- 電気電子工学専攻・電気電子工学コース
- 電子情報工学専攻・電子情報工学コース
- 応用化学専攻・応用化学コース
- 建築学専攻・建築学コース
- 情報工学専攻・情報工学コース
- 大学院講座
- 半導体・デジタル未来創造センター
- 三重大学戦略的リサーチコア



年間行事

※青色の文字は入試関係日程

4月 ■入学式 ■新入生 オリエンテーション ■前期授業開始	5月 ■本学記念日	6月	7月 ■選抜要項配布開始 ■総合型選抜 募集要項公表開始	8月 ■前期定期試験 ■夏季休業 ■学校推薦型選抜 募集要項公表開始 ■オープンキャンパス	9月 ■総合型選抜
10月 ■後期授業開始	11月 ■一般選抜 募集要項公表開始 ■大学祭 ■学校推薦型選抜	12月 ■冬季休業	1月 ■大学入学共通テスト ■個別学力検査 出願受付開始	2月 ■学校推薦型選抜 ■総合型選抜 ■前期日程試験 ■後期定期試験	3月 ■後期日程試験 ■学位記授与式 ■春季休業

※上記の記述内容については予定であり、変更する場合があります。



ごあいさつ

工学部長 今西 誠之

Face to Faceによる 丁寧な教育で実践的なものづくりの力を!

工学部は、数学や自然科学を基盤とし、ときには人文・社会科学の知見も取り入れながら、人類に役立つ「もの」や「仕組み」を創る（作る、造る）技術について教育・研究を行うところです。「もの」とは、実際に手で触れることのできるものだけでなく、一つ概念やバーチャルなシステムなど、目に見えないものも含まれます。工学から生み出された技術が、ゲーム機やロボット、自動車のように皆さんの生活を豊かにするとともに、建物や発電所など、社会基盤を支える重要な役割を担っています。近年深刻化するエネルギー、環境、防災といった社会課題の解決においても、その鍵を握っているのは工学が生み出す技術なのです。

Contents

- 02 新体制について
- 03 コース選択チャート
- 04 資格について
- 04 主な就職先
- 05 教育研究施設(キャンパスマップ)
- 07 機械工学専攻・機械工学コース
- 09 電気電子工学専攻・電気電子工学コース
- 11 電子情報工学専攻・電子情報工学コース
- 13 応用化学専攻・応用化学コース
- 15 建築学専攻・建築学コース
- 17 情報工学専攻・情報工学コース
- 19 学生からの声
- 21 大学院講座
- 21 半導体・デジタル未来創造センター
- 21 三重大学戦略的リサーチコア
- 22 工学教育の流れ
- 22 国際化教育について
- 23 入試について

≫工学部アドミッションポリシー

このような人を求めます

工学部は、科学技術の分野における先端的、創造的な職業能力はもとより、自然、社会、文化等に対する深い見識を育むことを目指して学び続ける意欲を持つ、次のような学生を求めます。

- 自然、社会、文化等に対して幅広い関心をもち、それらの基礎学力を持った人。
- 工学を理解するために必要な数学、理科に興味をもち、それらを応用する能力と自主的に学ぶ意欲を持った人。
- 自分の考えを的確に表現し、論理的に伝えることができる人。
- 工学における問題解決の実践に情熱をもち、社会に貢献しようという気概を持った人。
- 工学とその周辺分野に対する旺盛な好奇心をもち、真摯に問題を探求し続ける姿勢を持った人。

工学部・工学研究科の体制

工学部 総合工学科

1学科6コース
定員:430名
3年次編入:35名

機械工学コース

目安:95名程度(うち3年次編入:10名)

電気電子工学コース

目安:80名程度(うち3年次編入:10名)

電子情報工学コース

目安:40名程度

応用化学コース

目安:96名程度

建築学コース

目安:54名程度(うち3年次編入:10名)

情報工学コース

目安:100名程度(うち3年次編入:5名)

工学研究科 博士前期課程

6専攻
入学定員:216名

機械工学専攻

定員:55名

電気電子工学専攻

定員:45名

電子情報工学専攻

定員:10名

応用化学専攻

定員:56名

建築学専攻

定員:20名

情報工学専攻

定員:30名

※定員に変更がある場合があります。

このような人材を
育成します。

- ✓ 工学共通の幅広い知識、及び情報関連技術を有する人材
- ✓ 異分野とのコミュニケーション能力を持つ人材
- ✓ 学科の垣根を越えた学際分野も理解する研究者・リーダー
- ✓ 本学卒業・修了後の実社会で自己学習できる人材
- ✓ 卒業・修了後の進路が展望できる人材

コース選択チャート

工学部では6つのコースに分かれて入学し、4年間で教養とそれぞれのコースの専門的な力を身につけ、社会での実践力を養います。一般選抜前期日程ではすべてのコースを対象に、後期日程では電気電子工学コースと電子情報工学コースを対象に、第1希望と第2希望のコースを選択して出願できますが、その他の選抜では1つのコースを選択することになりますので、やりたいことができる将来の希望に添ったコースを選択してください。上を目指す人のためには大学院も設置されています。

	P.7	P.9	P.11	P.13	P.15	P.17
▼ 興味・関心	機械工学	電気電子工学	電子情報工学	応用化学	建築学	情報工学
01 高齢者や障害者の方を支援するロボットを作りたい	○	○				○
02 ナノスケールの世界の現象を解明し工学に役立てたい	○	○	○	○		
03 数学、物理を活かしたもののづくりを学びたい	○	○	○		○	○
04 工学の立場から医療分野に役立ちたい	○	○	○	○		○
05 電気、磁気、光などを融合させた新しいものを作りたい	○	○	○	○		○
06 コンピューターの基礎原理を理解したい		○	○			○
07 使いやすいコンピュータを開発したい		○	○			○
08 世界をスムーズに結ぶネットワークを構築したい		○	○			○
09 次世代情報通信機器(あるいは、次世代スマートフォン)を開発したい		○				○
10 原子・分子レベルで物理・化学現象の理解を深めたい	○	○		○		
11 環境保全のためのナノ物質や次世代エネルギー生成法の開発をしたい				○		
12 地球環境・資源問題を解決したい	○	○	○	○	○	○
13 風力発電などの次世代エネルギー技術を開発したい	○	○		○		
14 高性能な次世代電池・エネルギーを研究・開発したい		○		○		
15 建築のデザインや文化について学びたい					○	
16 建物や都市を設計したい					○	
17 地域や周辺環境に調和した住宅や町並みを設計したい					○	
18 歴史的建築物や伝統的な町並みを保存・修復したい					○	
19 次世代自動車などの製造技術を勉強したい	○	○				
20 生命化学の神秘、謎を探ってみたい				○		
21 センサやデバイスを研究したい		○	○			○
22 人間や生物の知的活動の仕組みを明らかにしたい		○	○			○
23 自然界を支配する法則について深く知りたい	○	○	○	○	○	
24 量子力学などの物理を応用した研究がしたい	○	○	○			

上記チャートに掲載されている「興味・関心」は一例です。 ※◎はコースの中心となる学び、○はコースと関連する学びを示しています。

資格について

工学部総合工学科に在籍する学生は、高等学校教諭一種免許状(工業)を取得できます。
 ・所定の教科及び教職に関する科目の単位を修得する必要があります。
 ・免許状は都道府県の教育委員会から授与されます。
 ・教員として採用されるためには、都道府県や政令指定都市、私立学校が行う教員採用試験に合格しなければなりません。

コース	卒業すれば 受験資格が 得られるもの	卒業すれば 資格取得が 有利になるもの	卒業すれば 資格取得 できるもの	卒業後、実務経験 を経て受験資格が 得られるもの	卒業後、 実務経験を経て 得られる資格
機械工学コース					安全管理者
電気電子工学コース	消防設備士(甲)	電気通信 主任技術者 ◆ 第1級 陸上無線技術士 ◆	第1級 陸上特殊無線技士 第2級 海上特殊無線技士	作業環境測定士 電気工事 施工管理技士	安全管理者 第1種電気主任 技術者
電子情報工学コース	消防設備士(甲)	電気通信 主任技術者 ◆ 第1級 陸上無線技術士 ◆	第1級 陸上特殊無線技士 第2級 海上特殊無線技士	作業環境測定士 電気工事 施工管理技士	安全管理者 第1種電気主任 技術者
応用化学コース	消防設備士(甲) 危険物取扱者(甲) ●	火薬類製造 保安責任者 ◆	毒劇物取扱責任者	作業環境測定士 ガス溶接作業 主任者	安全管理者
建築学コース	一級建築士 二級建築士 木造建築士			建築施工管理技士 建築設備士	安全管理者
情報工学コース		情報処理 技術者試験		作業環境測定士	安全管理者

◆ 試験科目の一部が免除になります。● 化学に関する授業科目を15単位以上修得すれば受験資格があります。
 ※ 資格等は、卒業に伴い取得出来るものではありません。詳しくは該当コースにご相談ください。

主な就職先

製造業	重工業	川崎重工業、神戸製鋼所、日本製鉄、大同特殊鋼、日立金属、日立造船、SUBARU、三井E&Sホールディングス、三菱重工業、IHI、JFEホールディングス
	機械器具	アイシン、アドヴィックス、オークマ、クボタ、小糸製作所、スズキ、住友電装、デンソー、東海理化電機製作所、トヨタ自動車、豊田自動織機、トヨタ車体、豊田合成、豊田鉄工、トヨタ紡織、日産自動車、日本車輛製造、富士電機、本田技研工業、マキタ、マツダ、三菱自動車工業、ヤマザキマザック、ヤマハ発動機、リンナイ、CKD、DMG森精機
	電機情報機器	イビデン、沖電気工業、オムロン、キオクシア、京セラ、シャープ、セイコーエプソン、ソニー、ダイキン工業、東芝、ニチコン、日本電気、ニデック、パナソニック、日立製作所、富士通、ブラザー工業、プライムアースEVエナジー、三菱電機、横河電機、GSユアサ
	精密器具	朝日インテック、オリンパス、キャノン、島津製作所、堀場製作所、村田製作所、リコーエレメックス
	化学工業	アイカ工業、アイシン化工、イーテック、イノアックコーポレーション、出光興産、花王、昭和四日市石油、住友化学、住友ゴム工業、住友理工、積水化学工業、セントラル硝子、東亜合成、東ソー、日油、東山フィルム、富士フィルム、三菱ケミカル、ミルボン、四日市合成、KHネオケム
	食品・薬品	味の素グループ、興和、小林製薬、佐藤製薬、参天製薬、寿がきや食品、竹本油脂、中外製薬、万協製薬、ロート製薬、富士フィルム和光純薬
	織 維	クラレ、グンゼ、東レ、帝人、ユニチカ
建設業	その他	コナミデジタルエンタテインメント、大日本印刷、デンソーテクノ、凸版印刷、ニデック、日本ガイシ、日本特殊陶業、パロマ、三菱電機メカトロニクスソフトウェア、YKK AP
	建設業	梓設計、NTTファシリティーズ、久米設計、坂倉建築研究所、東畑建築事務所、日本設計、安井建築設計事務所、大林組、鹿島建設、熊谷組、清水建設、大成建設、竹中工務店、戸田建設、三井住友建設、積水ハウス、大和ハウス工業、三機工業、高砂熟学工業
	電機・ガス業	関西電力、中部電力パワーグリッド、中部電力ミライズ、東京電力ホールディングス、東邦ガス
	運輸・情報通信業	デンソークリエイト、日本放送協会、ヤフー、JR東海、KDDI、NTTデータ東海、NTTドコモ、NTT西日本
	公務員・教員・その他	経済産業省、国土交通省、特許庁、愛知県、三重県、名古屋市、三重大学、百五銀行、三十三銀行、日本郵政

教育研究施設 (キャンパスマップ)

① 環境・情報科学館

環境に関する情報を公開したり、新しい教室や学習の空間を提供したりする施設です。環境に関する取組状況や研究成果を展示するコーナーと授業・ゼミのみならずグループでの勉強会や発表会、課外活動などに活用できる共有学習空間やオープンスクール形式の教室を備えています。



② 附属図書館

高度情報化社会に生きる学生の勉強生活を支援する施設。閲覧室・共同学習室・視聴覚室などのほか、最先端のハイテク機器も数多く備えています。開館時間も平日は8:30~20:00までと長く、教室の延長として利用できます。



⑤ 地域イノベーション研究開発拠点

高度な科学技術の開発を推進し、地域産業の発展に貢献することを目的として創設。これらの開発は、大学と民間企業・地方自治体・公設試験研究機関などの協力によって行う共同研究や受託研究、ならびに技術指導・技術相談を通じて行われます。科学技術相談室も設置されています。

⑥ 卓越型研究施設

大学と企業との共同研究を軸に、国際的にも高く評価される、独創的な研究開発を推進する拠点。
本拠点では、産学連携を通して、新たな産業分野を創成すると共に、若手研究者の人材を育成することを目的としています。



⑦ オープンイノベーション施設

● 機器分析施設
物質・材料の物理性・化学的性質の測定に使用される大型かつ新鋭の分析機器を保有しています。全学の教員・学生の研究に便宜を供与する全学共同利用の施設です。



⑧ 先端科学研究支援センター

● 遺伝子実験施設
高度な遺伝子組み換え実験など、最先端の研究や実験を行うための施設。ラジオアイソトープ(放射性同位元素)を使用した実験も可能です。工学部の応用化学コースが遺伝子工学に関する研究で使用しています。

● 電子顕微鏡施設
透過型電子顕微鏡・走査型電子顕微鏡・画像解析装置などが設置され、医学・生物学・工学の研究の進展に寄与しています。工学部では、半導体・金属・ガラスなどの微細構造の観察に利用し、威力を発揮しています。

⑨ 情報基盤センター

三重大学キャンパスネットワークの中核機関としての役割を担っています。全学生はセンターで稼働するメールサーバに自由にアクセスできる上に、ホームページを掲載することも可能。インターネットを使った情報検索やレポート作成に利用されています。今後ますます重要性が高まる施設です。



⑩ 地球環境センター(実験廃液処理施設)

学内における排出物全般の適正な管理を行う施設。実験廃液などの処理装置が、有害廃液を無害化処理して、環境汚染物質の流出を防ぎます。また、省資源・省エネルギーおよび、廃棄物のリサイクルに関する研究も行い、本学が環境負荷を減少するためのモデル地区となるよう努めています。



③ 三翠ホール

1,650席の大ホールをはじめとして、300席の小ホール、開口幅20メートルの舞台などを備える施設。全学的な式典や行事はもちろん、全国的な学会や大講演会なども開催されています。



④ 総合研究棟II (保健管理センター)



機械工学専攻 機械工学コース

<https://www.mach.mie-u.ac.jp/>

我が国の基幹産業である自動車産業や電機・電子産業、今後さらなる成長が見込まれる航空機産業や医療・福祉機器産業など、機械工学はすべてのモノづくり産業の中心にあります。
本コースでは、機械工学を母体として量子物理学・ナノ加工学が一体となることにより、モノづくりの基礎となる機械工学の知識や技術を核として、物理学を含む広範な知識を教授し、人間・環境・機械の調和的発展に貢献しうる骨太な機械技術者の育成を目指します。

※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

ロボティクス・メカトロニクス講座

◆ 知能ロボティクス

人間工学に基づくユーザビリティを追求したロボット制御技術を研究し、社会に貢献できる機械システムや知能ロボットの開発を行っています。特に、生命・医療・福祉の分野における支援ロボットの開発や重労働や危険作業を支援するロボット制御技術の開発に力を入れています。



▲左: 上肢動作支援用ウェアラブルロボット
右: 不整地走行用パーソナルモビリティ

◆ 人間支援システム

人間の生活や労働作業を支援するため、機械工学を基礎として、人間工学、ロボット工学、制御工学、心理学など幅広い学問分野を統合して、「人に優しく心に響く」人間支援システムの研究開発を行っています。



▲ 腰部アシスト装置



▲ 災害時の自動車防災システムの開発

機能創成プロセス講座

◆ 材料機能設計

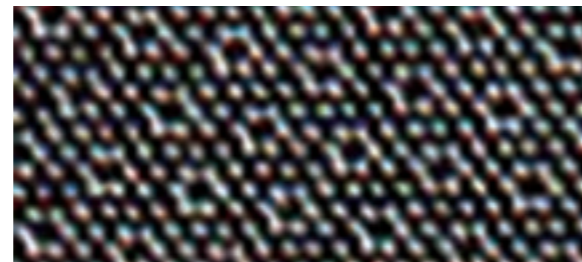
あらゆる機械製造において用いられる接合・切断について研究を行っています。急速加熱・冷却が可能な高周波誘導加熱装置、高エネルギー密度の1kW、2kWCO₂レーザー、自動車ボディー組立に使用されている抵抗溶接機などを使って実験をしています。



▲ レーザによる銅板の精密切断

◆ 集積加工システム

高機能加工システムの開発を機械工作と素材開発の観点から研究しています。金属材料の加工では環境に配慮した手法の確立を目指しています。素材としては環境負荷の少ないニューカーボン材料に着目しています。



▲ フラーレン化合物の高分解能電子顕微鏡像

◆ ナノ加工計測

ナノテクノロジーに関連する加工と計測、フラクタル解析の工学的応用、微生物を利用した材料処理技術の開発に関する研究を原子間力顕微鏡(AFM)、万能試験機、電子顕微鏡などの研究設備を用いて行っています。



▲ 車ボディ製造技術のナノ平面への応用例

▲ 原子間力顕微鏡: 各種試料表面のナノメートルオーダーの微細な形状を測定します。

機械物理学講座

◆ 生体システム工学

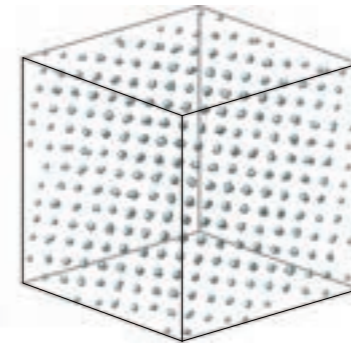
材料力学に基づいて、材料の変形と力の関係を研究しています。材料の変形の研究は、機械を設計し、製造するためにとても重要です。また医療分野から人体や臓器の運動を扱える重要な研究として期待されています。



▶ 環境制御型複合負荷力学試験機

◆ 物理学

物理学の理論的問題について、数学的および計算科学的な方法に基づいて研究しています。複雑系・ソフトマター物理などのテーマに取り組んでいます。



▲ シミュレーションで自発的に形成された体心立方格子

◆ 量子応用工学

量子応用工学は、量子力学の成果を機械工学に取り込むべく、制御やロボットといったシステム系の研究から、力学物性や薄膜生成、結晶成長といった材料物性の分野に至るまで、機械工学全般に関して新しい学問の構築を目指しています。



▲ 3次元磁束密度測定装置による付加塑性変形量の測定

環境エネルギー講座

◆ エネルギー環境工学

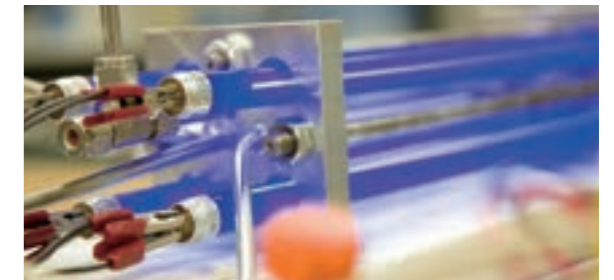
空気や水をはじめとする様々な物質の流れを取り扱い、環境に配慮した風力発電・マイクロ水力発電などの再生可能エネルギーに関連する流体機械の研究や開発を行っています。



▲ 100kW風力発電装置

◆ 熱エネルギーシステム

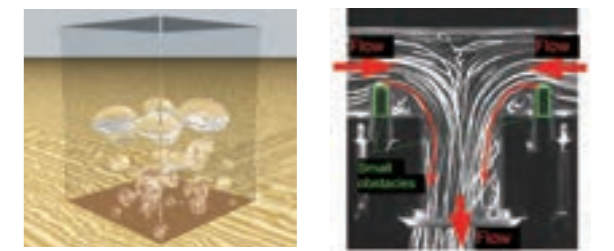
熱エネルギーに関する技術を基盤として、基礎研究と実践的研究とを融合させながら、より環境に優しいエネルギーの有効利用と省エネルギー化技術の研究開発に取り組んでいます。



▲ CO₂改質実験装置

◆ 流動制御

環境・エネルギー機器の性能向上のため、関連する複雑流動現象(乱流・混相流・相変化・流体-構造連成)に対する現象解析ならびに計算手法・流動制御方法の開発を行っています。



▲ 沸騰の数値シミュレーション

▲ 小物体によるT字合流管内の流動制御

電気電子工学専攻 電気電子工学コース

<https://www.elec.mie-u.ac.jp/>

電気電子工学とは、電気エネルギーを安定に供給する手段や電気を使用して様々なものを動かしたり情報を伝達したりする手段を考える学問です。具体的には、効率的な電気エネルギーの発生・輸送・変換システム、電気自動車、ロボットなどの制御システム、高度な通信・情報システム、量子・光技術、それらを支える素子材料と多岐にわたっており、私たちの社会生活を豊かにしています。本コースでは、情報化・国際化時代に対応できるコミュニケーション能力や高度情報通信処理の習得も可能です。全ての産業に関わる実学を身につけ、それを社会に還元できる人材育成を目指しています。

※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

電気システム工学講座

産業機器や人間環境で活躍するロボットに有用な制御手法の開発、それらに使用される新型モータの研究をしています。自動車や航空機の電動化に貢献するための電源装置の研究もしています。また、自然エネルギー発電のさらなる普及を目指して、電力変換装置の高効率化に関する研究をしています。さらに、有機・無機複合材料の絶縁評価および有機・無機複合技術による高分子材料の高機能化に関する研究、アモルファス軟磁性薄膜の感歪デバイスや環境発電への応用などの研究を行っています。



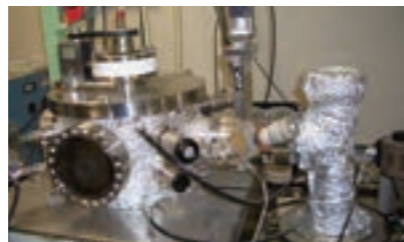
▲ロボットハンド



▲小型風力発電機



▲マトリクスコンバータ実験装置



▲マグネトロンスパッタ装置

情報通信・フォトニクス講座

IT社会を支える主要技術である通信システムデバイス分野の諸技術の研究を行っています。通信分野では、無線ネットワーク高度化をめざして、変復調技術、無線ネットワーク制御技術、無線通信プロトコルなどに関する研究を行っています。デバイス分野では、高周波回路・アンテナ技術とフォトニクス技術を利用して、次世代無線通信(5G/6G)向け無線・光融合デバイスやIoT用センサ、非破壊診断システムなどの研究開発を行っています。さらに、メタマテリアルの概念に基づくテラヘルツ材料・素子の開発などの研究を行っています。



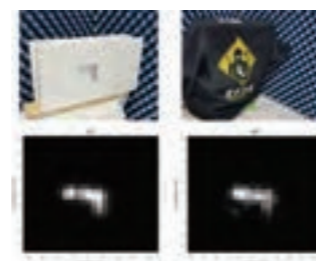
▲研究成果の実証に用いられる無線LANモジュール



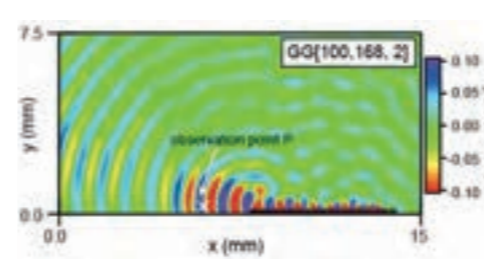
▲世界初の5G無線向け光電界センサ



▲大型サッカースタジアムでの5G無線実験



▲ミリ波を用いた非接触イメージング



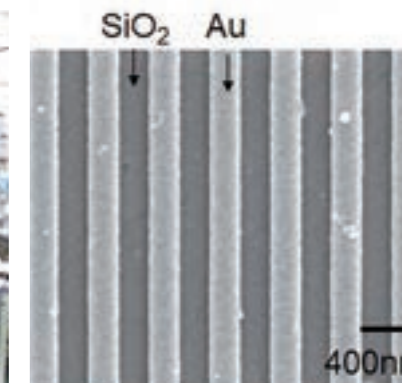
▲高指向性テラヘルツ電磁波放射

量子・光ナノエレクトロニクス講座

量子状態や光の技術を利用した、エレクトロニクスデバイス、ナノ計測・加工技術、量子材料設計に関する研究を行っています。開発領域では、ナノ構造による光制御技術に応用した光学デバイスの開発、ナノ領域分析や加工のための高輝度電子・イオン源の開発と表面分析への応用、機能性ナノカーボン材料の生成およびエレクトロニクス応用に関する研究を行っています。基礎領域では、電子軌道とスピンの量子状態を利用したメモリ・センサー・回路の理論設計や人工多層膜・2次元原子層物質・トポロジカル物質などの量子材料設計を行っています。



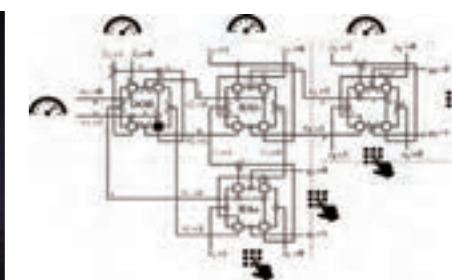
▲1D/3Dアトムプローブ



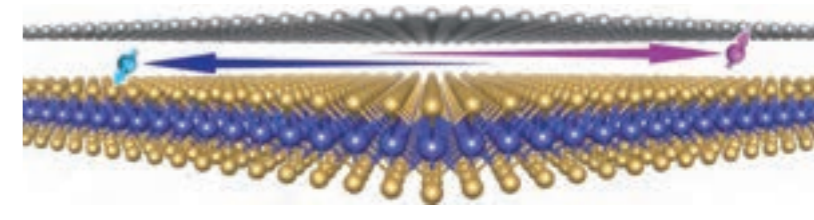
▲金の回折格子による表面プラズモンセンサー



▲プラズマ中でのカーボンナノチューブの生成の様子



▲量子素子回路の例



▲2次元原子層物質の量子材料設計と電子スピン輸送

電子情報工学専攻 電子情報工学コース

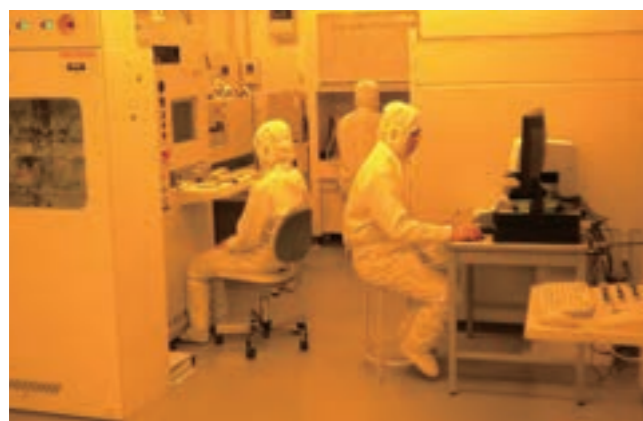
<https://www.eng.mie-u.ac.jp/eie/>

カーボンニュートラルな社会の実現には、デジタル社会への変革が不可欠であり、その鍵となる素子が半導体です。本コースでは、カーボンニュートラル社会の実現に資する半導体分野およびデジタル関連分野における高度技術者育成を目的に、研究環境下での人材育成を行います。技術交流や共同研究を推進することで半導体分野およびデジタル関連分野に関する高度技術者を育成し、デジタル社会の実現に貢献します。

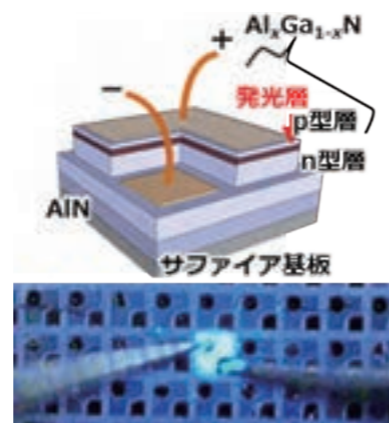
※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

半導体工学講座

◆半導体は今日のエレクトロニクス社会を支える頭脳デバイスです。窒化物半導体を用いたLEDなどの光デバイスは、青色や白色のLEDだけでなく、信号機、テレビ、スマートフォン、照明など広く応用され、さらに携帯電話の基地局で用いられる高周波トランジスタ、省エネルギーを目的とした自動車用パワー半導体としても実用化されつつあります。半導体工学講座では、窒化物半導体の結晶成長、デバイス作製、物性やデバイス特性の評価を中心に世界トップレベルの研究を行っています。



▲半導体デバイス作製を行うクリーンルーム

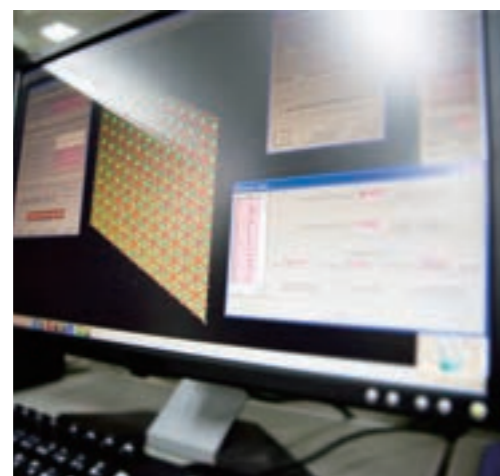


▲窒化物半導体による青色LED

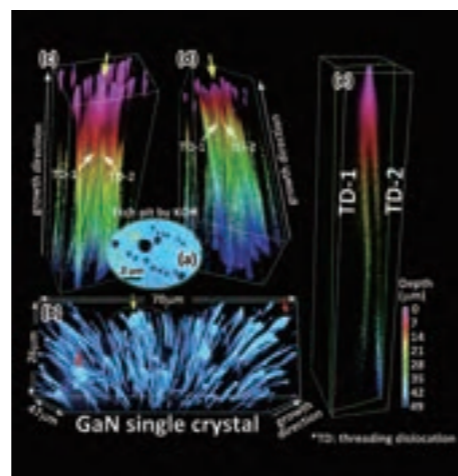
◆計算材料科学の立場から、計算機を用いて半導体および酸化物等さまざまな材料の構造的性質および電子的性質を予測する研究を行っています。半導体結晶成長や材料の構造安定性、物理的性質の解析・予測のための電子構造計算手法の開発および電子デバイスのための材料設計を行っています。



▲材料科学計算システム



▲計算機による半導体材料設計



▲多光子顕微鏡を用いたGaN転位3D可視化

デジタル工学講座

◆計算機によるさまざまな支援システムを構築しています。また、そのための基礎技術として、機械学習（ニューラルネットワークなど）の研究も行っています。機械学習技術を活用したさまざまな支援システムの構築（自然言語処理、画像処理分野）や教育用タブレットアプリケーションの開発を行っています。

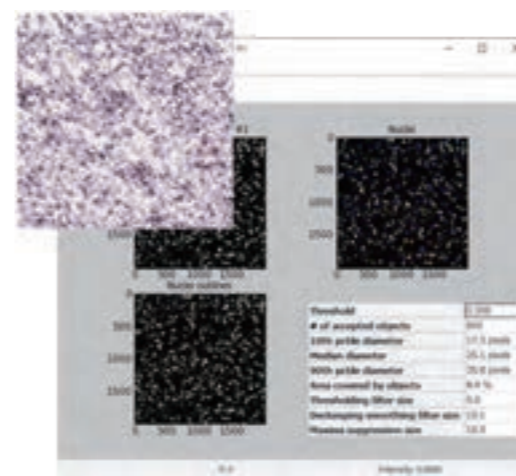


▲会話ロボットを用いた高齢者のためのコミュニケーション支援

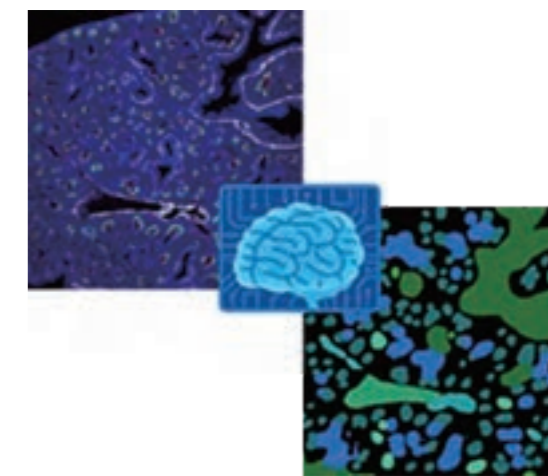


▲プログラミング演習システム

◆情報処理、特に医療や福祉に関する情報システムとそれに関連する技術について研究開発を進めています。また、病理画像から疾患進行度を推定するための画像処理システムや蛍光染色画像を使った肺の構造発達解析についても研究を進めています。



▲脳腫瘍（神経膠腫）の進行度評価



▲ディープラーニングによる自動画像セグメンテーション

応用化学専攻 応用化学コース

<https://www.chem.mie-u.ac.jp>

応用化学は、化学の観点から科学技術を展開する学問で、具体的には、社会生活をより豊かにするために、新しい機能を持った物質や素材を開発します。これらの新物質や新素材は、新たな機能を持ったシステムを構築することにつながります。たとえば、エネルギー問題においては、新たな化学エネルギー変換技術や省エネルギー技術の開発が要請されています。地球環境問題に関しても、化学的観点からの技術・計測法の開発を試みています。さらに、新たな化学合成法や生物工学技術を駆逐することで、医療分野などへの貢献も期待されています。

※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

物理化学講座



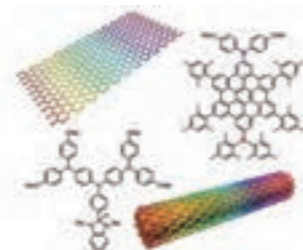
▲粘性測定装置上に滴下された試料液滴

◆有機素材化学

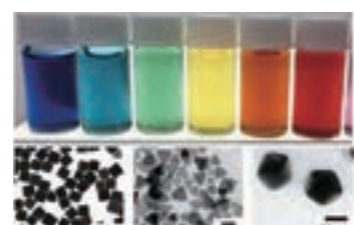
高分子・界面活性剤などソフトマターの特徴である自己集合性や界面活性を利用して、異なる素材を組み合わせた高分子ナノコンポジットなどのソフト複合材料や新規多孔性膜の構築、またそれら物性・機能が発現するメカニズムを明らかにする研究を行っています。

◆ナノ材料物理化学

機能性有機分子材料の設計・電子状態解明・機能発現についての研究、またプラズマ、熱などの高温反応場を利用し、ナノサイズのカーボンやシリコン、金属とのナノ複合体について、その成長技術や応用の観点から研究を進めています。



▲機能性有機分子とナノカーボン



▲様々な形の金属ナノ粒子の電子顕微鏡像とその分散液の色

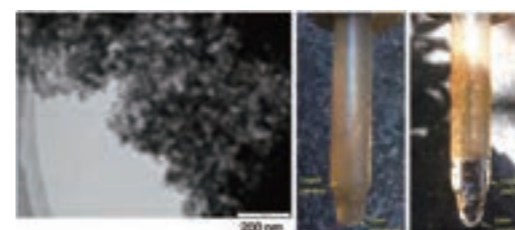
◆量子ナノ機能化学

将来有望と期待される金属や半導体のナノ粒子・ナノクラスターを、化学的手法に基づいたボトムアップの技術を駆使して精密に作製し、「ナノ」の世界に特徴的な機能(特に光機能)の発現、及びその理論的背景を明らかにする研究を行っています。

無機分析化学講座

◆無機素材化学

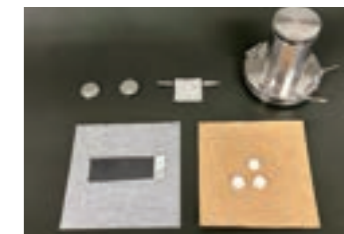
無機素材を生かした化学を展開しています。具体的には、石油精製触媒および環境触媒をはじめとする各種固体触媒の調製と反応性、セルフクリーニングガラスやpH応答ガラスの調製と、ガラスの非線形光学効果の解明に関する研究を行っています。



▲左:ゼオライトを用いた階層構造触媒のTEM像
右:セルフクリーニングpH電極(写真右が開発品)

◆エネルギー変換化学

無機機能材料のエネルギー変換デバイスへの応用という観点から、先進リチウムイオン電池や革新電池に関わる新規材料開発、材料構造・機能解析に関する研究・システムの提案、自動車用蓄電池技術の実用化に向けた研究開発を行っています。



▲正極シートおよび固体電解質と各種電池セル



▲水質の比色分析

◆分析環境化学

サステナブル(持続可能な)社会を指向する技術の研究を行っています。主に、環境汚染物質を計測する手法、水質を浄化する手法、炭酸ガス(CO₂)を還元変換する手法、水素を生成する手法などの環境負荷低減技術の開発に取り組んでいます。

有機化学講座

◆有機合成化学

現代生活は、機能性材料や医薬品など多様な有機化合物群の上に成り立っています。人に優しいファインケミカルズを合成するための環境調和型有機合成プロセスの開発、新規生理活性化合物および機能性材料の開発を目指して、「有機ものづくり」の研究を行っています。



▲ロータリーエポレーター(回転式蒸発装置)

◆有機機能化学

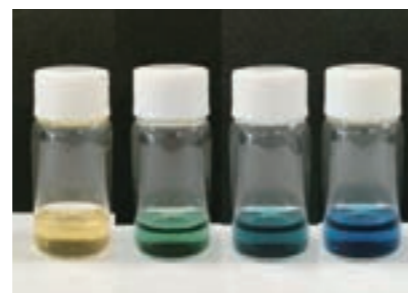
電子的・磁氣的・光学的に有用な機能をもつ有機材料の創製を目指して研究を行っています。そのために、理論に基づいて設計した新しい有機分子の合成と、先端機器分析による物理的・化学的特性の評価に取り組んでいます。



▲蒸留装置

◆高分子合成化学

光学機能や電子機能を有するさまざまな機能性高分子材料(リチウム二次電池用高分子、可動性架橋高分子、光学活性高分子、両親媒性高分子、クロミック材料など)を開拓する研究開発を行っています。



▲pHによるクロミック材料の色の変化

生命化学講座

◆生体材料化学

細胞や組織の画像および分子生物学的情報を統合した解析を用いて、生体組織が再生・修復する機構を研究しています。さらに、得られた知見を基に生体膜・血管を模倣した人工構造体の開発や、組織間物質透過の研究、および組織再生を誘導する再生医療用材料・バイオ人工臓器の開発に取り組んでいます。



▲培養細胞の観察

◆分子生物学

分子生物学・遺伝子細胞工学・生化学を基盤とし、脂質膜・タンパク質・核酸を用いた、人工細胞モデルの構築やバイオナノ・マイクロ素材の創製に取り組んでいます。化学と生物の融合によって、メディカル・ライフサイエンスに役立てるものづくりを目標に、基礎から応用までの幅広い研究を行っています。



▲クリーンベンチでの細胞操作

建築学専攻 建築学コース

<https://www.arch.mie-u.ac.jp/>

建築学とは、建築物の設計や歴史などについて研究する学問です。工学部の中において、芸術的な感覚も要求されるのが特徴といえます。今日では生活・文化の向上に伴い、それにふさわしい建築物が求められると同時に、自然災害に対して人命や財産を守るための高度な技術が必要となっており、より総合的な見地が求められています。本コースは、社会の変動を構造的にとらえ、幅広い総合的見地から活動できる、創造力豊かな人材の育成を目指しています。

※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

建築計画系

各種建築物の機能およびそのマネジメント手法、都市ならびに地域の計画や景観保全、私たちが受け継いでいる歴史文化、さらに建築形態を構想する際の思考技術など、建築物のデザイン・計画のための多彩な研究を行っています。



▲ 建築展の様子(三重県立美術館)



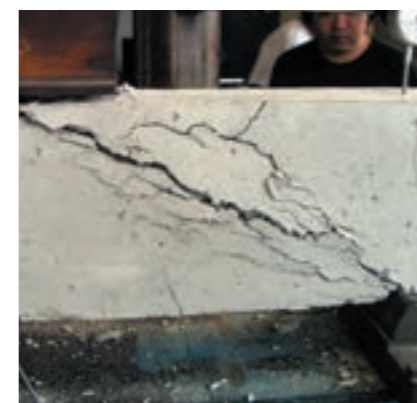
▲ 建築作品の模型(廣瀬達也さん)

建築構造系

建築物の構造設計法、建築材料の品質・耐久性評価、建築生産などに関する教育を担当しています。研究テーマとしては、木・鋼・鉄筋コンクリートなどの各種構造の耐震性能および材料特性に関する研究や、地震などの自然災害に対する建築防災に関する研究などを行っています。



▲ 1MN級大型構造物試験装置



▲ 鉄筋コンクリート梁の曲げ・せん断試験



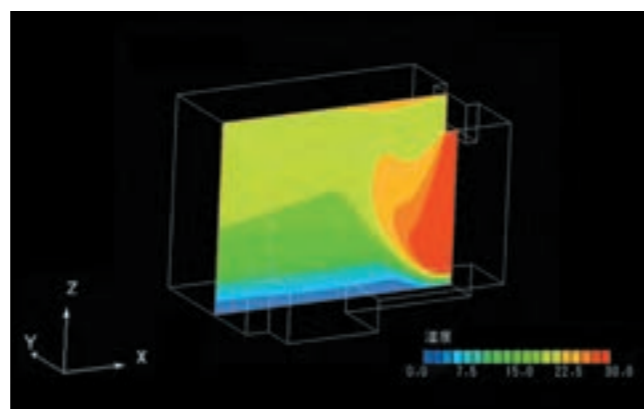
▲ 鋼構造接合部の性能実験

建築環境設備系

建築内空間のみならずその周辺環境下での熱・空気・音・光環境を適切に制御し、健康・快適性、地球環境負荷などの観点から、より望ましい都市・建築環境を実現するために様々な研究に取り組んでいます。



▲ 密集市街地街路から見た天空



▲ シミュレーションによる暖房時の室内温度分布

地域防災系

南海トラフ巨大地震などの自然災害による被害を予防あるいは軽減するために求められる建築物、都市、地域における総合的な対策としての防災都市計画、市民・企業・大学・行政の協働による防災まちづくり、災害後の応急仮設住宅計画や災害復興計画などに関する研究などを行います。



▲ 供給された木造応急仮設住宅(東北地方)



▲ 建設された災害公営住宅(東北地方)

現在、自動車、家電、ロボット、インフラ設備などあらゆるモノがインターネットにつながるIoTをベースとした社会に移行しつつあり、情報の重要性は増すばかりです。情報工学はこの情報を工学的に扱う技術やシステムについて研究する学問です。本コースでは、コンピュータ、情報ネットワーク、知能システム、人間情報など情報を中心にIoTにかかわる技術分野について、基礎から応用まで高度で多面的な技術力を習得できます。また、このような技術に関連する先端的、魅力的な研究を進めています。

※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

コンピュータサイエンス講座

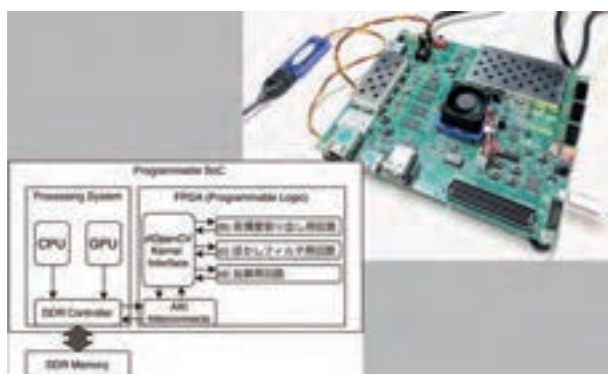
あらゆる情報処理の基盤となるデータ構造やアルゴリズム、プログラミング言語処理系を始めとするソフトウェアの開発環境、アプリケーションの高性能化のための並列処理技術、また、これらを支える先進的なハードウェアの設計、などを研究しています。

◆コンピュータアーキテクチャ

論理設計、集積システム設計、並列処理、最適化

◆コンピュータソフトウェア

アルゴリズム、プログラムの解析・検証、ソフトウェア開発支援、量子コンピューティング、暗号理論



▲FPGA/SoCシステム設計



▲最適化アルゴリズムによる経路計画

知能システム工学講座

知能システム工学講座では、音や振動を利用した応用計測技術とデータ処理技術の開発、IoTシステム・スマートシステムの基盤技術とその応用研究、リモートセンシングや地理空間情報の解析、自然言語処理に基づいたオンライン議論の対話に関する分析、学習支援システム開発や教育データの分析などについて研究しています。

◆スマートシステム

IoT システム、エネルギー管理、デジタル信号処理、音・振動の計測・評価

◆データサイエンス

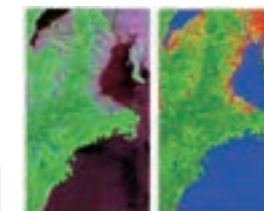
リモートセンシング、地理空間情報解析、画像認識、自然言語処理、教育データ取得・解析



▲AIを利用した製造ラインにおける不良品判別システム



▼IoTを用いたエネルギー管理システム



▲三重県の衛星画像(左)と土地被覆解析(右)

▼自然言語処理を用いた教育支援

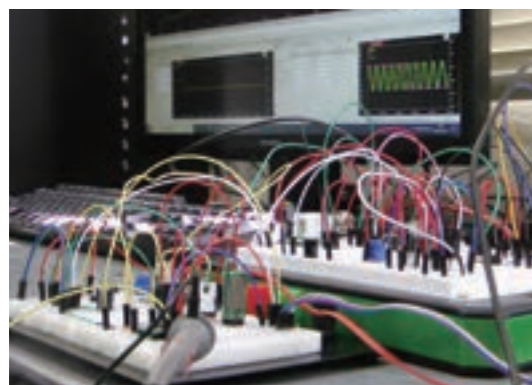


情報ネットワーク工学講座

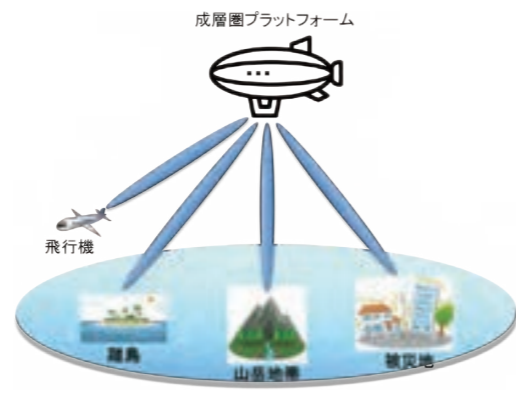
IoTにとって重要な役割を果たしている情報通信ネットワークに関連する研究を進めています。より快適で安全な社会の実現を目指して、情報化社会の基礎となっている光ファイバ、無線、ネットワークにかかわる技術について研究開発しています。

◆情報通信システム

情報通信、光アクセスネットワーク、無線通信の信号処理、到来方向推定、HAPS通信、MIMO伝送



▲光アクセスネットワーク異常検出・経路切替実験装置



▲従来のネットワークではインターネットアクセスの提供が困難な地域へのHAPSによる情報伝送

人間情報学講座

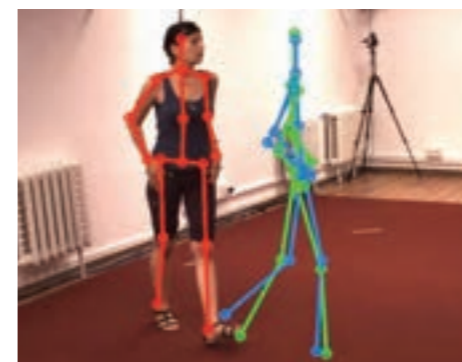
人間の知覚、認知、行動に関する人間情報学の基礎的・応用的研究を通して、人間の認識能力や、人間の反応や行動に合わせた特性を備えた、人に優しいコンピュータシステムを開発しています。

◆ヒューマンコンピュータインタラクション

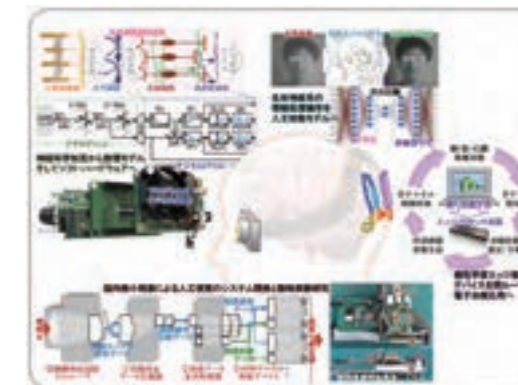
文字・パターン認識と機械学習、動画認識、コンピュータ支援診断

◆知能化ライフサポート

神経情報学、脳機能補綴、複合現実感、視運動知覚



▲動画解析による人間の動作予測 (元動画は公開データセット Human3.6M より)



▲ライフサポートの知能化

学生からの声

三重大学工学部の先輩達からメッセージが届きました！是非ご一読いただき、三重大学工学部へお越しください！

最も大切な基礎が学べる

機械工学コース 横山 美桜李



▲試薬で塩素を着色し濃度を計測しています



▲次亜塩素酸生成装置

●三重大学に入学したきっかけ

私は昔からものづくりに興味があり、特に機械の仕組みを学びたいと考えていました。三重大学を選んだ理由としては、国立大学として学費の負担が少なく、機械工学の基礎を学

べる環境が整っていると感じたからです。また、大学から一人暮らしをしたいと考えていたため、地元から離れたこの三重大学を選びました。

●入学後の話

実際に、機械工学科では「機械」と聞いて連想しやすい設計、航空宇宙、エネルギー分野などだけでなく、熱・流体や材料など、幅広い分野を学ぶことができました。実験や製図といった実践的な講義でも、機械工学の基礎となる内容が多く、幅広く応用できる知識を習得できたと感じています。卒業研究では消毒液である次亜塩素酸生成時の気泡の挙動を研究しています。

また、工学部は女子学生が少なく不安もありましたが、同級生も先輩も気さくに接してくださったおかげで、心強い友人ができました。大学では学習内容が難しくなるため、支え合える仲間の存在はとても大きいです。入学後は、勉学はもちろんですが、友人関係も楽しんでみてください。

●三重大学を目指す皆さんへ

受験は苦しく大変だと思いますが、その経験は必ずあなたの財産になります。ぜひ最後まで諦めずに頑張ってください。また、大切なのはどんな環境にいるかではなく、あなたが何をやるかです。塾に通っていない、進学校ではないといったことを気にせず、自分のやりたいことに向かって、今できることを全力で取り組んでみてください。応援しています！

電気電子工学について幅広く学べる！

電気電子工学コース 兵藤 彩香



▲屋上に設置した実験用の風力発電装置



▲太陽光発電と風力発電を組み合わせた回路を設計中

●三重大学に入学したきっかけ

小さい頃から理系科目が得意で、高校の頃に物理分野が好きになりました。さらに物理について学びたいという思いから、工学部への入学を決めました。電気電子工学コースを選

んだ理由は、機械系、情報系、物理系、化学系に関する様々なことについて総合的に学ぶことができるためです。

●入学後の話

電気電子工学コースは女子が少ないので最初は不安でしたが、一緒に講義を受けたり、実験を行ったりする中で友達と仲良くなることができました。

私はエネルギーシステム研究室に所属し、太陽光発電システムについて研究しています。具体的には、元々ある太陽光発電装置に風力発電装置を繋げることで昼夜問わず発電させたり、発電電力を増加させたりさせることが目標です。研究は難しいところもありますが、大学院への進学も決意し、最後まで頑張りたいと思います。

●三重大学を目指す皆さんへ

大学では自分の学びたいことを学び、いろいろな資格の取得もできます。私は電気主任技術者の資格を取得することができました。資格を取得するための講義を受ける過程で、今まではあまり触れることのなかった分野について知ることができたり、視野が広がる可能性もあると思ったので、大学入学後は取得を目指すのも良いことだと思います。ほかにもバイトやサークルなどが視野を広げる機会になると思うので、ぜひ、充実したキャンパスライフを送ってください。

充実した大学生生活

応用化学コース 奥野 悠梨



▲実験に使用する水溶液



▲合成した触媒を分析する装置

●三重大学に入学したきっかけ

私は高校生の頃に化学の授業で生分解性プラスチックについて学んだことがきっかけで、環境問題に化学的な観点からアプローチをす

ることに憧れを持ち、大学で化学の知識や技術を身に着けたいと考えました。三重大学の応用化学コースでは化学の様々な分野について学べます。また、大学が自宅から通える圏内であり、5つの学部が1つのキャンパスに集まってい

三重大学で将来への第一歩を！

建築学コース 鈴木 彩奈



▲卒業設計作品のシート(一部抜粋)



▲卒業設計作品の模型

●三重大学に入学したきっかけ

大学で学びたいことを考えた時、昔から何かに熱中するタイプではなかった自分が興味を持ったのが「建築」で、いつか地元の公共施設づくりに携わりたいと思うようになりました。建築

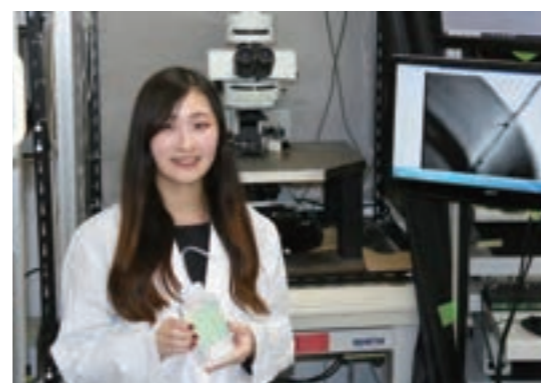
について学べる大学を探中で、三重大学の、学びたいことを学べる環境と緑豊かで広々としたキャンパスの雰囲気惹かれ、学力も自分に合うことから志望を決めました。

●入学後の話

三重大学は、学業に集中できる環境が整っており、同じ志を持った仲間と充実した学生生活を送れる学校だと思います。大学は、学業はもちろん、サークル、アルバイト、旅行等、高校生までとは全く違う経験が出来るので、自分自身が大きく成長できる場所です。受験勉強は決して楽ではありませんが、いつか頑張ってきたと思える時が来ると思うので、全力で頑張ってみてください。応援しています。

視覚補綴の研究を通して、視覚障害克服へ新たな光を！

情報工学コース 寺倉 結菜



▲自分の実験データを解析している様子



▲桜の下で研究室メンバーと集合写真

●三重大学に入学したきっかけ

高校生の頃、部活動がきっかけで三重大学を訪れたことからこの大学に興味を持ち始めました。特に、情報工学コースの先輩のお話を伺い、最先端の研究や充実した学習環境に魅力を感じ、志望度が高まりました。

三重大学は総合大学であるため、文理様々な人との交流が期待できる点も魅力の一つでした。広大なキャンパスで、のびのびと勉学に励むことができることに惹かれました。

●入学後の話

入学してまず感じたのは、人々の温かさです。

るため、多くの人と交流できることに魅力を感じました。

●入学後の話

応用化学コースは工学部の他のコースと比べて女子の人数が多いです。3年生では学生実験があり、同級生と交流しながら実験の基礎を学べます。私は現在、分析環境化学研究室に所属しています。研究室では、触媒を用いたメタン生成について研究しており、エネルギー問題の解決につながる非常にやりがいのある研究です。卒業後は大学院へ進学し、より高度な知識や技術を身に着けたいです。そして将来は、三重大学で学んだことを活かし、環境問題に携わる仕事がしたいです。

●三重大学を目指す皆さんへ

大学では、より専門的な知識を身に着けたり、留学にチャレンジできたりと学業的に充実するのはもちろん、部活や趣味、アルバイトなどを自分で管理して時間を有効活用できることが高校との大きな違いだと思います。受験勉強から逃げ出したいこともありますが、試験の後に待っている楽しい大学生活をモチベーションに、勉強している自分を褒めながら頑張りましょう。応援しています。

建築学コースでは、建築の専門知識や技術を幅広く学ぶことができます。他コースに比べて人数が少ないため、先生方から直接指導を受けられる機会が多く、現場見学や、設計を外部講師の方に見ていただくといった貴重な機会もあります。また、2年後期～4年前期の間は、1人1台机が与えられ、同期だけでなく、先輩後輩と同じ空間で作業することができます。このような、アドバイスをもらえたり刺激を受けたりする環境が身近にあることも魅力の一つだと思います。

設計課題の集大成である卒業設計では、敷地や建築物の設定を全て自分で行います。私は、各地に残された近代化遺産を観光資源として活用し、地域の活性化を図ることを目的とした博物館を設計しました。

●三重大学を目指す皆さんへ

三重大学は、学業に集中できる環境が整っており、同じ志を持った仲間と充実した学生生活を送れる学校だと思います。大学は、学業はもちろん、サークル、アルバイト、旅行等、高校生までとは全く違う経験が出来るので、自分自身が大きく成長できる場所です。受験勉強は決して楽ではありませんが、いつか頑張ってきたと思える時が来ると思うので、全力で頑張ってみてください。応援しています。

特に地元の三重県出身の方は、穏やかで優しい方が多く、すぐに打ち解けることができました。広大なキャンパスには四季を感じられる草花が多く、自然に囲まれた環境で学ぶことができるのも魅力です。気分転換に海まで散歩することもできます。授業は難しく、課題も大変なこともあります。学生同士協力しながら乗り越えています。先生方も丁寧に教えてくださり、安心して質問できる環境が整っています。

現在、私は視覚補綴に関する研究を行っています。実験動物の大脳視覚野へ微小電気刺激を与えて神経細胞群の活動を誘発し、それらの関係について数理解析等を行う事で、失明者の方々の脳へ外界の視覚情報を効率的に送る技術を探求しています。教授や先輩方にサポートしていただきながら、楽しい研究室生活を送っています。

●三重大学を目指す皆さんへ

高校生活は一生涯の思い出になる貴重な時間です。部活や勉強、友達との絆など、たくさんの経験があなたを成長させてくれるはずです。大学受験は大きな目標ですが、それだけに捉われず、今の時間を一杯楽しんでください。どんな道に進んでも、必ず道は開けます。

最後に、後悔のないように、やりたいことに挑戦し、そして自分自身を信じて進んでください。応援しています！



大学院講座

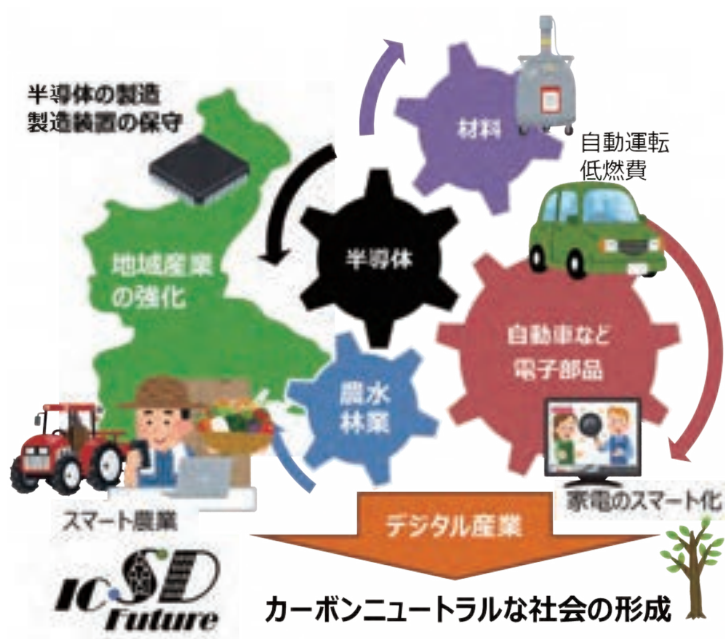
循環システム設計

人類は産業革命以来、化石燃料などの種々の資源・エネルギーを大量に消費し、その結果、資源・エネルギーの枯渇が危惧される状態にあります。また、大量の物資や製品の生産、あるいは消費活動にともない、環境汚染や破壊が急速に進み、大きな人的・物的被害が続出するという深刻な事態にいたっています。また高齢化の進む社会では、労働人口の高齢化や人材不足など新たな問題も発生しています。

これらのことから、省エネルギー・リサイクル・環境保全技術の構築などの研究が急務となっています。本講座ではこれらの課題に対し、環境対応型加工、エコ・マテリアルズ、構造物の耐久性向上、リサイクル、効率的で事故の少ない移動手段などにかかわる教育と研究を通じて、資源・エネルギーの有効利用、リサイクル、環境保全、交通の効率化に関連した循環型システムを構築し、社会に貢献できる人材を育てることを目的としています。

なお、本講座は社会人のブラッシュアップ(キャリアアップ)教育・研究に対応する講座(窓口)でもあり、この点でも社会的貢献を目指しています。

半導体・デジタル未来創造センター



日本の半導体産業の重要拠点「三重」がデジタル社会の未来をリードする

カーボンニュートラルな社会の実現には、デジタル社会への変革が不可欠であり、その鍵となる素子が半導体です。三重県には、世界最大規模のNAND型フラッシュメモリ工場や半導体受託製造のファウンドリーがあり、また半導体関連企業が協業を行うなど、日本における半導体産業の重要拠点となっています。

三重大学は、令和5年4月に半導体分野及びデジタル関連分野に関する高度技術者育成と研究推進により、地域産業の発展に貢献することを目的に、「半導体・デジタル未来創造センター(英語名:Innovation Center for Semiconductor and Digital Future)」を設置しました。その半導体部門では、工学部及び大学院工学研究科を中心に、半導体分野に関連した授業を増設するなど、半導体人材育成を強化し、インターンシップを通して、学生が地域の半導体事業を理解する機会を増やしています。特に大学院では、技術交流や共同研究を推進することで、**研究の場での半導体分野に関する開発人材や研究者を育成**しています。

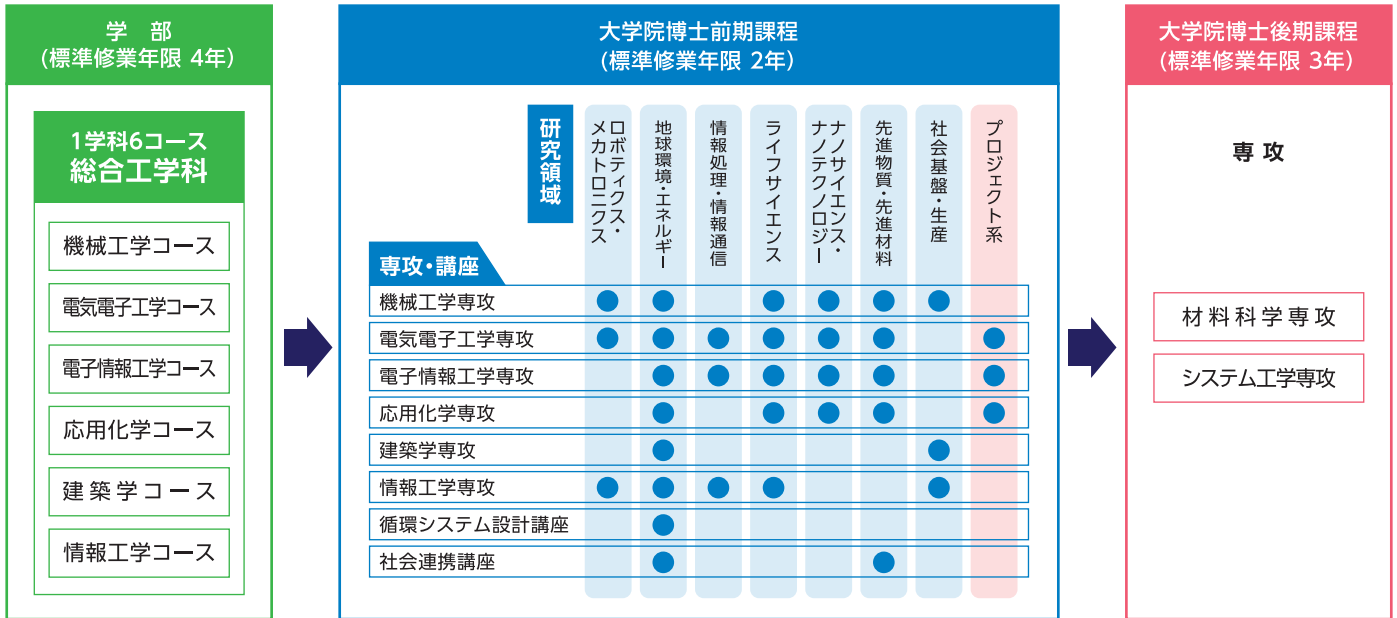
三重大学戦略的リサーチコア

三重大学の戦略的リサーチコアには、社会課題の解決やイノベーションの創出に資する独創的研究の推進を目的とした14のセンター・ユニットがあります。その中で、次の5つのセンター・ユニットは工学部の教員が中心となって活発に研究を進めています。

- エネルギー材料統合研究センター
- 人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター
- 水素エネルギー・環境研究ユニット
- 半導体の結晶科学とデバイス創製センター
- Beyond-5G/6G無線通信応用技術研究センター

工学教育の流れ

現在、工学系学部では大学院進学者の割合が増えてきています。そのため、大学院も視野に入れた大学入試が重要になってきています。三重大学工学研究科・工学部の教育・研究の特長は、各コースに対応した大学院博士前期課程に、社会からの要請・要望の大きい産業分野を横断した8つの研究領域およびプロジェクト系を設けていることです。これによってそれらの課題に対する迅速で柔軟な対応、専門分野を体系的に習得した高度専門技術者の養成を可能にしています。工学研究科においては、博士課程一貫コースを導入し、研究能力ばかりでなく、キャリア形成に必要な総合的な能力（企画力、統率力、経営力、国際性など）の育成を目指しています。また、独自の取組みとして工学研究科・工学部内に国際・産学官連携部門、社会連携部門を設け、国際化、社会との連携を進めます。



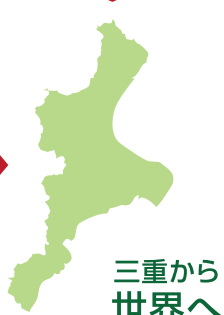
国際化教育について

世界に通用する高度専門産業人材養成のための国際化教育カリキュラム

学部1・2年生	学部3・4年生	博士前期課程1・2年生
全学共通教育センター英語科目	選択専門英語 必修専門英語	選択必修国際化教育科目
<ul style="list-style-type: none"> 英語 I 大学基礎 英語 I コミュニケーション 英語 I TOEIC 英語 II 発展 	<ul style="list-style-type: none"> 理系英語科目 	<ul style="list-style-type: none"> 海外連携大学間 Skype Lecture 国際会議発表 国際インターンシップ 短期留学 学術英語論文発表

海外先進大学との国際交流の充実 令和8年2月1日現在

<ul style="list-style-type: none"> 清華大学能源与动力工程系(中国) モンクット王ラカバン工科大学(タイ) 浙江大学理学部(中国) パリ工芸大学(フランス) パドヴァ大学マネジメント工学部(イタリア) 科学教育大学ダナン大学(ベトナム) 	<ul style="list-style-type: none"> ベトナム科学技術院(VAST) エネルギー科学研究所(IES)(ベトナム) ロイトリンゲン大学工学部(ドイツ) ガジャ・マダ大学 数学自然科学学部(インドネシア) バンドン工科大学 数学自然科学学部(インドネシア) マレーシアペルリス大学(マレーシア) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際インターンシップ 海外留学 国際シンポジウム開催 国際共同研究
---	--	--

2年修了  三重から世界へ

工学部総合工学科 入試について

※下記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。

入学者選抜方法

◆ 前期日程 個別学力検査の日程…2027年2月25日(木)

コース	募集人員	大学入学共通テストの 利用教科・科目名	個別学力検査			大学入学共通テスト・個別学力検査配点							
			教科等	科目	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	情報	合計
機械工学コース	45	国:国 地歴:「地総,地探」・「歴総,日探」・ 「歴総,世探」 公民:「公,倫」・「公,政経」・ 「地総/歴総/公」 } から1 数:「数I,数A」と「数II,数B,数C」 理:「物理」と「化学」 外:英 情:情	数学	数I・数II・数III 数A・数B・数C	—	大学入学共通テスト	100	*50	100	100	250	50	650
電気電子工学コース	32					個別学力検査等	—	—	350	250	—	—	600
電子情報工学コース	18					計	100	*50	450	350	250	50	1250
応用化学コース	40					大学入学共通テスト	100	*50	100	100	250	50	650
建築学コース	34					個別学力検査等	—	—	350	250	—	—	600
情報工学コース	60					計	100	*50	450	350	250	50	1250
			理科	物理基礎・物理 化学基礎・化学 } から1	—	—	350	250	—	—	600		
					計	100	*50	450	350	250	50	1250	
					—	—	—	350	250	—	—	600	
					計	100	*50	450	350	250	50	1250	
					—	—	—	350	250	—	—	600	
					計	100	*50	450	350	250	50	1250	

配点に、*印を付してある教科は選択教科を示します。

◆ 後期日程 個別学力検査の日程…2027年3月12日(金)

コース	募集人員	大学入学共通テストの 利用教科・科目名	個別学力検査			大学入学共通テスト・個別学力検査配点								
			教科等	科目	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	合計
機械工学コース	20	国:国 地歴:「地総,地探」・「歴総,日探」・ 「歴総,世探」 公民:「公,倫」・「公,政経」・ 「地総/歴総/公」 } から1 数:「数I,数A」と「数II,数B,数C」 【6教科8科目】 理:「物理」と「化学」 外:英 情:情	理科 その他	物理基礎・物理 ※2 調査書	—	大学入学共通テスト	100	*50	200	100	200	50	—	700
電気電子工学コース	25					個別学力検査等	—	—	—	350	—	—	—	350
電子情報工学コース	14					計	100	*50	200	450	200	50	—	1050
応用化学コース	46					大学入学共通テスト	50	*50	100	100	125	50	—	475
建築学コース	10					個別学力検査等	—	—	—	400	—	—	—	400
情報工学コース	25					計	50	*50	100	500	125	50	—	875
			理科 その他	物理基礎・物理 ※2 調査書	—	—	300	100	250	50	—	850		
					計	100	*50	300	550	250	50	—	1300	
			理科 その他	化学基礎・化学 ※2 調査書	—	—	—	400	—	—	—	—	400	
					計	50	*50	100	500	125	50	—	875	
			その他	立体スケッチ,面接 (配付した立体模型を構成・描 画させ、立体・画面の構成力、 観察力、表現力、集中力、グラフ トマンシップについて一定の能 力があることを検査します。)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
					計	100	*50	200	100	200	50	—	700	
			その他	小論文 ※2 調査書	—	—	—	—	—	—	—	200	200	
					計	100	*50	200	200	200	100	—	850	
					—	—	—	—	—	—	—	200	200	
					計	100	*50	200	200	200	100	200	1050	

※あらかじめ定めた基準以上のものを合否判定の対象とします。 ※2 各コースの合否ラインに同店で並んだ場合、調査書を総合的に評価し順位をつけます。
配点に、*印を付してある教科は選択教科を示します。

学校推薦型選抜

区分	コース	募集人員及び対象学科	大学入学共通テスト	選抜方法	日程
推薦I-A	機械工学コース	5	全学科	課さない	小論文、調査書、推薦書及び面接の結果を総合して行います。面接においては、機械工学に対する適性を問うと共に、英語・数学・物理にかかわる学力を問います。
推薦I-B	電気電子工学コース	5	工業(電気電子)に関する学科		書類審査(調査書)、資格試験の点数化及び面接の結果を総合的・多面的に判定して合格者を決定します。
推薦I-女子特別推薦	電子情報工学コース	8	全学科		書類審査(調査書)、科学技術に関する活動及び志望動機に関する面接の結果を総合的・多面的に判定して合格者を決定します。
推薦II	機械工学コース	10	全学科	課す	【第1次選考】 大学入学共通テスト(3教科5科目)の成績に基づいて、募集人員の2倍程度の合格者を決定します。 【第2次選考】 第1次選考に合格した者に対し、調査書、推薦書、志願理由書及び面接の結果と1次選考の結果を総合して行います。面接の評価によっては、総得点の順位にかかわらず不合格となることがあります。
	情報工学コース	5			【第1次選考】 大学入学共通テスト(6教科8科目)の成績に基づいて、募集人員の2倍程度の合格者を決定します。 【第2次選考】 第1次選考に合格した者に対し、書類審査及び面接による第2次選考を実施し、第1次選考の結果とあわせて、総合的・多面的に判定を行い、最終合格者を決定します。
					出願期間 2026年11月2日(月)～11月9日(月) 入学試験 2026年11月21日(土) [多数の場合11月22日(日)も含む] 合格発表 2026年12月11日(金) 出願期間 2027年1月19日(火)～1月25日(月) 入学試験 2027年2月8日(月) 合格発表 2027年2月10日(水)

総合型選抜

区分	コース	募集人員及び対象学科	大学入学共通テスト	選抜方法	日程
総合I	電気電子工学コース	8	課さない	調査書、志願理由書、活動報告書、面接及び筆記試験(物理及び数学)の結果を総合して行います。	出願期間 2026年9月1日(火)～9月7日(月) 入学試験 2026年9月27日(日) 合格発表 【総合I】2026年11月2日(月) 【総合II】2027年2月10日(水)
	応用化学コース	10		調査書、志願理由書、活動報告書、小論文及び基本的な化学の実験及び面接の結果を総合して行います。	
総合II	機械工学コース	5	課す	【第1次選考】 調査書、志願理由書、活動報告書及び面接の結果を総合し、募集人員の2倍程度の合格者を決定します。面接の評価によっては、総得点の順位にかかわらず不合格となることがあります。 【第2次選考】 第1次選考に合格した者に対し、大学入学共通テスト(3教科5科目)の成績に基づいて決定します。なお、第1次選考の結果は、第2次選考の評価には利用しません。	
	情報工学コース	5		【第1次選考】 調査書、志願理由書、活動報告書及び面接の結果を総合し、募集人員の2倍程度の合格者を決定します。 【第2次選考】 第1次選考に合格した者に対し、大学入学共通テスト(6教科8科目)の成績と、第1次選考の結果とをあわせて総合的・多面的に判定を行い、最終合格者を決定します。	

特別選抜(外国人留学生)

詳細については、「令和9(2027)年度 三重大学工学部 私費外国人留学生特別選抜 学生募集要項」(2026年10月頃公表予定)を参照してください。

入学志願状況

入学者選抜方法	2026年度			2025年度		
	募集人員(人)	入学志願者(人)	倍率(倍)	募集人員(人)	入学志願者(人)	倍率(倍)
前期日程入学試験	231	701	3.03	233	770	3.30
後期日程入学試験	140	665	4.75	141	737	5.23
学校推薦型選抜 推薦①	28	73	2.60	28	60	2.14
学校推薦型選抜 推薦②	18	34	1.89	18	36	2.00
学校推薦型選抜 推薦③	5	6	1.20	5	7	1.40
学校推薦型選抜 推薦④	8	4	0.50	5	8	1.60

三重大学インターネット出願システムの導入について

三重大学では、「一般選抜」、「私費外国人留学生特別選抜」、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」において、インターネット出願を導入しております。これに伴い、これらの選抜の学生募集要項の発行は致しません。ウェブサイトから閲覧又はダウンロードをお願いします。

お問い合わせ先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 三重大学 学務部入試チーム
電話:059-231-9063(平日9:00~17:00) メール:nyusiteam@ab.mie-u.ac.jp



交通のご案内

- JR東海 紀勢本線／近鉄名古屋線
津駅東口バスのりば …………… バスで約15分
…………… タクシーで約10分
- 江戸橋(三重大学前)駅から …………… 徒歩で約15分
- 伊勢自動車道 津インターから …………… 車で約20分



国立大学法人 三重大学 工学研究科チーム

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL 059-231-9469 FAX 059-231-9471
<https://www.eng.mie-u.ac.jp>